

平成25年度「家庭の日」作品コンクール審査結果（作文の部）

	賞	学校	学年	氏名	題名
1	最優秀賞	金沢市立材木町小学校	1年	ヤマコシ シゲナ 山腰 茂直	ぼくのおとうと
2	優秀賞	小松市立芦城小学校	6年	キムラ アユ 吉村 朱由	家族っていいね
3	優秀賞	白山市立美川中学校	2年	タベ ケンタ 田辺 健太	僕と三人の小さな悪魔
4	佳作	小松市立苗代小学校	1年	ヨシカワ ヒト 吉川 寛斗	いもうとがうまれて
5	佳作	金沢市立戸板小学校	3年	イダ リン 飯田 理蘭	わたしのおじいちゃん
6	佳作	金沢市立森本小学校	6年	サイウ カン 西東 果音	私がお姉ちゃんになった日
7	佳作	羽咋市立羽咋中学校	1年	カノ マユ 中野 珠悠	父への思い

応募総数77点

平成25年度「家庭の日」作品コンクール審査結果（絵画・ポスターの部）

	賞	学校	学年	氏名	題名
1	最優秀賞	加賀市立分校小学校	1年	キムラ ユキ 北村 悠月	みんなでいっしょにおんせんにいきたいな
2	優秀賞	穴水町立穴水小学校	1年	クロダ リオ 黒田 莉央	かぞくではなび
3	優秀賞	金沢市立材木町小学校	4年	カムラ サキ 中村 早貴	田舎でねた「かや」の中
4	優秀賞	羽咋市立羽咋小学校	6年	カワサキ ヒメ 河崎 姫弓	家族ふれあい
5	優秀賞	志賀町立高浜小学校	6年	カワサキ シンイチロウ 河崎 新一郎	わくわく夕ごはん
6	優秀賞	七尾市立七尾東部中学校	1年	コバヤシ レナ 小畑 玲奈	墓そうじ
7	佳作	加賀市立南郷小学校	1年	フジタ カナ 藤堂 葉名	たのしいかぞくりよう(うみ)
8	佳作	能美市立辰口中央小学校	1年	キハラ ユズ 吉原 柚風	さくらの木の下で
9	佳作	金沢市立材木町小学校	2年	タカサキ アサ 高桑 有咲	白鳥路まで かぞくでサイクリング
10	佳作	羽咋市立邑知小学校	3年	タニグチ ユキ 谷口 優月	楽しかったピザづくり
11	佳作	羽咋市立羽咋小学校	3年	イシノ ハルカ 石野 陽香	みんなにここにこ動ぶつ園
12	佳作	白山市立蕪城小学校	3年	キムラ タカ 北村 崇翔	みんなで食べるとおいしいな
13	佳作	志賀町立富来小学校	3年	ヒロシキ マキ 廣白 千晶	ひいばあちゃんのおたんじょう会
14	佳作	金沢市立南小立野小学校	4年	イワキ カズ 岩城 楓	家族で川あそび
15	佳作	羽咋市立邑知小学校	5年	ナガノ ユキ 長野 佑紀	楽しかったバーベキュー
16	佳作	輪島市立河井小学校	6年	シンタニ サヤカ 新谷 早也香	みんなで食べるかき氷
17	佳作	かほく市立高松小学校	6年	シラエ マキ 白江 憲	家族でテニス
18	佳作	金沢市立野田中学校	3年	カザミ カナ 風見 佳那	家族の休日

応募総数494点

ぼくのおとうと

ぼくにはおとうとがいます。なまえはしげかずです。だけど、いえではおかずとよんでいます。いま一さい十かげつです。

おかずがおかあさんのおなかにいるとき、ぼくははやくあそびたいとおもっていました。ぼくはおとこのこのふたごがうまれるといいなとおもっていました。でもうまれたのはおとこのこがひとりだけでした。おかずがうまれたときぼくはすぐおじいちゃんおばあちゃんといっしょにみにいきました。ぼくはおかずをだっこしてあげました。ふにやふにやしていかわいかったです。いえにきてからでもふにやふにやないたりねっころがったりしてかわいかったです。

さいきんのおかずはわるいことをいっばいしています。せんたくを、ぐちやぐちやにしたり、ぼくのがっこうにつかうえんぴつをかってにもって行ってしんをおったり、あいすはいちにちいっぼんなのにれいとうこからあいすをさんぼんとつてきてたべようとします。だめというとなきます。ほかにもぼくのえほんをやぶったりぼくのかみのけをひっぱります。おかずがわるいことをするとおかあさんはあかちやんだからしかたがないよといいます。でもぼくはいやだなとおもいます。

おかずがかわいいとおもうこともあります。ほいくえんにおむかえにいったときにいとにいつてとびついてきます。さんりんしゃにいつしよにのったときおかずがきやあーといたりするのがかわいいです。おかずはえがおがかわいいです。

おかずがしょうがく一ねんせいぐらいになったらカードゲームやしょうぎやとらんぷをいつしよにしたいです。あとおかずといっしょにはなびをしたりじてんしゃにのつてあそびたいです。

おかずがはやくおおきくなるといいなとおもいます。

私は、よくお兄ちゃんと小さな事でけんかをしてしまう。お母さんは、

「けんかするほど仲が良い。」って言うけど、私はそうは思わない。お兄ちゃんとあまり仲良くしたことがないし、小さいころは、すごく仲がよかったけど、去年ぐらいから、なんか、お兄ちゃんと一緒にいるのが、いやになってきてしまっただけで、そこから、仲が悪くなってしまうんだらうと思った。

そして、次の日の朝、お兄ちゃんが、しゃべりかけてきて、思わず無視してしまった。そして、お兄ちゃんがすごくおこってしまったし、お母さんにも、注意されてしまった。もうそろそろ、仲直りしようと思っていたのに、もっと仲が悪くなってしまう。

その日の夜ご飯の時間に、私がお兄ちゃんに、「ごめん。」と言ったけど、次は私が無視されて、夜ご飯の時は、いつもにぎやかなのに、今日は、なんだか静かな夜ご飯だった。

次の日の朝に、お母さんに相談してみた。そしたら、

「自然に仲直りができたら一番いいと思うよ。無理に気を使いきたりすると、何か不自然だなんて思われるから、そこは気をつけてね。」と言われた。でも、自然に仲直りだなんて、本当にできるのかなって思った。そして私は、いろいろとお兄ちゃん役に立ちそうなことを、ばれないように、やっているのと、その日の夜お兄ちゃんが、

「この前はごめん。」と、言ってきたくれた。

私は、もちろんこう言った。

「あゆこそ、ごめん。でも、お兄ちゃんは、悪いことしてない。」と、いつて仲直りできた。

仲直りをしてから数日後、お兄ちゃんに夏休みの宿題の分からない所を教えてもらっている時にまた、お兄ちゃんを、おこらせてしまった。おこらせてしまった理由は、お兄ちゃんがせつかく私のために説明してくれているのに、私は、話を聞いていなかったり、ふざけたりしてしまっただけで、お兄ちゃんはおこってしまった。その日の夜、お兄ちゃんは友達の家泊りに行って、お母さんと私2人だけになった。夜ご飯を食べている時に、私はお母さんに言った。

「どうやったらけんかが少なくなるのかなあと、けんかしてもすぐに仲直りができるようにになりたい。」とお母さんに、むちゃなお願いを試してみた。そしてお母さんは言った。「まず、相手にあまり気をつかわないこと、あときつい言葉を使わないこと、たまにはけんかもしなさい。」と言われた。

次の日の朝、お兄ちゃんとわたしは、ふつうにいつもどおりしゃべっていた。

「初めて、自然に仲直りができた。」と心の中で私は思っていた。

そして私は、改めて思ったことがあった。それは、題名になっている、家族っていいな”と改めて思った。お兄ちゃん、お母さんから、学ぶことがたくさんあり、楽しい時間を一緒にすごせて、本当に、家族という言葉はいい言葉だと思った。

私はこれからも、自分の家族を大切にしていきたい。

僕と三人の小さな悪魔

僕には三人の弟がいる。小学校四年・二年・保育園年少で毎日がとてもにぎやかだ。僕たち四人は顔がよく似ているようで、みんなまとめて「田辺さんちの四兄弟」とよくセットで呼ばれたりする。僕はあまり似ているとは思わないし、それぞれが個性的であると思っっているけれど、まわりの人達からみると皆同じに見えるようだ。彼ら三人は僕の背中に飛び乗ってきたり、僕の嫌がる事を嬉しそうにしつこくしてきたりして、僕の邪魔ばかりしてくる。中学生になった頃から、僕の周りでいたずらばかりする三人の小さな悪魔がうつつとうしく思えてきて、僕は毎日イライラしていた。やかましくて勉強にも集中できない。母に訴えると、「二階の自分の部屋にこもって勉強したらいい」と言われ、そうしてみると何故だか今度は静かすぎて集中できない。どうやら静かすぎても駄目な様で、僕は「うるさすぎず、静かすぎない場所」でないと勉強できない人になつてしまった様だ。なので今日も耳を塞ぎながらリビングで勉強する。そんな僕に悪魔達は次なる誘惑を仕掛けてくる。

僕の目の前で妙なダンスを踊り、しきりに僕を笑わせようとしてくる。見ない様に、悪魔に負けない様に必死で目をそらすけれど、悪魔達の畏についてはまってしまい、僕は笑ってしまう。その直後に母の怒鳴り声が僕めがけて飛んでくる。「こら！健太！真面目に勉強しなさい！……………」

おかしい。悪いのは弟達なのに。何故僕が怒られるんだ。「あいつらが笑わせたのに。僕は悪くない」必死で母に言い訳をする僕を悪魔達はニヤニヤと笑いながら見ている。

これも悪魔の作戦か。彼らは僕を困らせる為に生まれて来たのだろうか。疑問に思い、母に訊ねてみる。「弟達は僕の邪魔をする為に生まれて来たのだろうか。」

母は驚いた顔をした後に、大声で「馬鹿者！」と怒鳴った。また怒られてしまった。

そんな日々を過ごす僕だが、時にはやり返したいとも思う。母が目を離している隙に僕なりのやり方で彼らに悪態をついてみたりする。「馬鹿。間抜け。アホ。」小声で言う。

その直後、「お母さん！健太が馬鹿言うたと弟が騒ぎ出す。「健太！」

また僕が悪者だ。もともとは弟から仕掛けてきたのに。どんな場面でも両親は小さき者の味方だ。僕ばかりがいつも悪いみたいだ。

だけど、そんな彼らも時々僕の役に立つ。

落ち込んでいる時に笑わせてくれたり、嫌な事を忘れさせてくれたりする。彼らに対して困ったり、悔しい思いをしたりする事は確かに多いけれど、僕は一人っ子が良いと思っただ事は一度もない。それは僕も彼らが大切だと思っっているという事だろうか。

不思議な事はまだある。彼らに一番好きな人は誰か訊ねると皆、僕だと言う。何故。

いつもの行動からは好かれているとはとても思えないのだが。僕なら好きな人に迷惑はかけたくない。よく解らないので再び母に訊ねてみる。「僕が好きなのに僕の嫌がる様子を見て何で嬉しいんだろう。」

すると母は「健太と関わりたいんだね。」と言った。思わず、「そんな形でか。」と言った。

意味が解らない。彼らは僕に何を求めているのか。三人が同じ事を考えていて何故僕だけが違うんだろう。僕にも兄がいたなら同じ事をするのだろうか。僕が弟という立場になる事は、これまでもこれからも永遠にないので、この謎は一生解らない。

先日、お盆の墓参りで一番下の三才の弟が怪我をした。父と母は線香に火を点けていて、僕達四人がそばで遊んでいる時だった。墓場にあるコンクリートの階段で足を踏み外し、下まで転がりおちて、あちこちを擦りむいたのだ。弟の泣き叫ぶ大声を聞いた母が、怒りまくって僕達の頭を順番に叩いた。

「危ない事を教えるから落ちるんだ。あなた達がこの子を大人になるまできちんと守りなさい。」

僕は言い返さなかった。僕と十も歳の離れた小さな弟の人生は始まったばかりで、できない事の方が多い。僕は兄として今まで学んだ事や経験してきた事を基に、彼を守り、伝える義務がある。そう思った。

僕は彼らを最近は、邪魔に思う事が多かったけれど、考え方を少し変えれば、これも経験の一つとして僕を成長させてくれる事柄なのかな、と思った。弟三人を持つ人は滅多にいない。僕が彼らをかわいがり、大切に思う事は誰しも経験できる事ではない。彼らは僕を苦しめる為ではなく、むしろ学ばせたり、楽しい気持ちを教える為に生まれてきた天使ではないだろうか。楽しみを一人占めするよりも四人で笑えば四倍楽しくなる。そう考えて毎日を過ごした方が怒られる回数も減るだろう。そう思い直して今日も僕は悪魔達と戦う。「うるさい！僕の邪魔をするな！」

いもうとがうまれて

ぼくのいもうとは、2さいです。いもうとがうまれたとき、ぼくはうれしかったです。びょういんから、はじめておうちに来たひ、かお、て、あし、ぜんぶちいさくてかわいかったです。まだミルクをのんでねてばかりのときは、ぼくがおもちやあそんでいても、じやましてくることはありませんでした。だけどいまは、いもうとはほいくえんからかえってくる。とぼくがっこうのしゅくだいをしていても、じやまをします。そんなときぼくは、ちよっぴりだけいもうとのことがきらいになります。しゅくだいがおわって、いもうととあそんであげると、いもうとはとってもたのしそうにしています。ぼくが、「さっきはじやまっていってごめんね。」というど、いもうとは、にっこりしてくれました。いもうとをきらいにならなければよかったなあとおもいました。

いもうとがうまれるまで、きょうだいのなかでいちばんしたでした。いもうとがうまれてきてくれて、おにいちゃんになりました。おにいちゃんになれてよかったとおもうけれど、いっばいがんばることがあります。おとうさんやおかあさんに、かまってほしいなあとおもっていても、いもうとがないたりすると、ぼくがあとになるからです。でもいもうとがいてくれると、おじいちゃんも、おばあちゃんも、おとうさんも、おかあさんも、おねえちゃんも、みんなもつとにこになります。ぼくもうれしいです。

ぼくは、6ねんせいになったら、いもうとは1ねんせいになります。ぼくが、がっこうにつれていってあげたいです。こまっていたり、なっていたら、ぼくがたすけてあげたいです。

わたしのおじいちゃん

わたしのおじいちゃんは、わたしが生まれる前になくなりました。わたしのおじいちゃんはどうな人だったんだろうと、今は思っています。

それは、今年の七月のおじいちゃんの十三回きというおまいりをして、おばあちゃんやお父さんやお母さんが、おじいちゃんは、こんな人だったねと思ひ出話をしていたからです。

おじいちゃんは、コーヒーがすきで、おじいちゃんになってから、コーヒー屋さんをしたそうです。お花もすきで、いつも庭で手入れをしていたそうです。じょうだんがすきで、おもしろいことを言う人だそうです。お酒もすきでした。何より、やさしい人だったそうです。

おじいちゃんのお姉さんは、おじいちゃんを、「びんじちゃん」と、よんでいました。おじいちゃんの名前を「びんじ」と聞いて、おじいちゃんに手紙を書きたくなりました。

「天国のわたしのおじいちゃんへ」

はじめまして、びんじおじいちゃん。

おじいちゃんは、わたしをだれかなと思っっているでしょう。わたしはおじいちゃんの子どもの子どもです。今、小学三年生です。

天国では、何をしていますか。毎日コーヒーを入れて、天国の人たちをしあわせにしますか。おじいちゃんが入れたコーヒーはおいしそうに思えます。わたしもおじいちゃんの入れたコーヒーに牛にゆうをたっぷり入れてのんでみたいです。わたしはコーヒー牛にゆうがだいすきです。

庭のお花のしゃくなげは、毎年さいています。わたしも、きれいな花が大すきです。花がさくと、うれしくなります。

コーヒー牛にゆうのみながら、おじいちゃんのおもしろい話を聞いてみたいです。

おじいちゃんとわたしはよくにているのかな。

おじいちゃんの子どもの子どもより。」

八月のおぼんの前にお父さんといっしょに、おじいちゃんのおはかを見がきました。おじいちゃんのすきなお酒をもって。おはかの前で手を合わせ、おじいちゃんを思っておまいりしました。今年のおぼんのおはかまいりは、おじいちゃんが近くにかんじられました。わたしたち家族のことをやさしく見まもっているのだなと思います。これからもずっとずっと見まもってください。ありがとう、びんじおじいちゃん。

佳作 金沢市立森本小学校 六年 西東 果音

私がお姉ちゃんになった日

私には、二つちがいの姉がいる。小さいころから、性格は真逆で、何をするにも意見が合わなかった。それでも仲は良く、色んな事を二人でやってきた。大きくなった今でも、仲は良いと思う。でも、小さいころのぼう険心がなくなって、私の方が姉任せになっていた。

そんな私に、十一才差の妹ができることになった。私は、ずっと二人姉妹だと思っていたから、自分が姉になるのが、楽しみでもあり、不安でもあった。お母さんのおなかの中に、私の妹がいることを聞いてからも、全く実感がわかなかった。

そして、妹が産まれた。その日、私は妹とお母さんを見に、病院に行った。妹の顔を見ても、しばらくは実感がわかなかった。たった一週間なのに、家に帰ってこないお母さんが心配になったりして、お母さんの大切さを、改めて知った一週間になった。

妹とお母さんが帰ってきてからは、

「ああ、お姉ちゃんになったんだな。」

と、ようやく実感がわいてきた。

妹の名前は、家族みんなで決めた。人と人をつなぐという意味で結音という名前になった。妹の世話は、家族みんなでしている。

最初は、寝ている時間が多かった妹だけど、寝返りをうち、お座りもでき、自己主張もするようになり、心身ともに成長していることを感じる。私の手におえない事も多くなってきた。

今年の十月で、妹は一才になる。歩けるようになるのかなあ。歩けるようになったら、お散歩も行きたいし、公園でも一緒に遊んであげたい。もう少し大きくなったら、授業参観にも、行ってあげられるのかなあ。そう思うと、姉は小さいながら、私のお世話をしてくれていたので、すごいなあと思うし、感謝もしている。だから私も、色んな事をしてあげたいと思う。将来は、三人姉妹で海外旅行に行ってみたいなあ。

私がお姉ちゃんになったあの日、私にとっても、家族にとっても、大切な日となりました。今では、妹が私達家族を結んでくれています。

かわいい妹へ。

将来は三人姉妹で旅行に行こうね。

ママへの感謝の気持ちをおすれずに、

早くおおきくなあれ！

父へのおもい

「ねえ、パパはどうして毎日帰ってこないの。」

幼いころの私は父に同じ質問ばかりしていました。私の父は単身赴任で平日の間は帰ってきません。週末だけ帰ってきて、またすぐ仕事へ行ってしまう、そんな日々が幼いころの私にとってすごくさみしいことだったのでしよう。夕飯はいつも家族がそろうものと考えていた私に一つだけ席の空いた夕飯は少し切なかったのかもしれない。友達の父も毎日帰って来るのだといえます。その時私は、「どうして私のパパだけ毎日帰ってこないの。」と疑問をいだくようになりました。それで何度も何度も父に同じ質問を問いかけたのです。

しかし父は、私に悲しい思いをさせまいと「パパも会えなくてさみしいよ。でも、一週間たったらまたすぐ会えるからね。大丈夫だよ。」と、父は優しくそう言うのでした。

小学生になった私は、いつもより早く起きる日が増えました。それでも父は朝がとつても早いため、私が起きると同時に仕事へ行ってしまうのでした。私はその後ろ姿を

「いつてらっしゃい。」

と言う笑顔とうらはらにむなしい気持ちで見送っていました。週のはじめ、「父のいつてきます。」の声のあと、「ただいま」の声を聞くまで一週間もあると考えるとむなしくなったのでしよう。しかしその分、帰って来たときのうれしさは強いものです。週末、家族そろっての夕飯、会話。私の一番の楽しみでした。

そんな日々が続いたある日、父が家から通勤できるようになりました。父は毎日帰って来ることができるようになりました。私は中学生になり、電車通学になりました。

父は、毎朝私が駅まで行くとき、笑顔で手を振り、見送ってくれます。夜になると、父は仕事から毎日帰ってきてくれます。毎日話せる、顔が見れる、私はうれしさでいっぱいでした。「いつてきます」の声も「ただいま」の声も新鮮な声に聞こえました。

父の笑顔には何かパワーがあるようでした。父だけではありません。私は父を通じてたくさんの人に支えられているんだなと思いました。いつも「どうして私だけ」という自分を責める気持ちがあったのですが、父をきっかけに広い心を持つてもっと前向きに考えようと思うことができました。

いつか私もそんな父や支えてくれた家族のみんなに恩返しをしたいなと思っています。

平成25年度 「家庭の日」 作品コンクール 絵画・ポスターの部 入選作品



最優秀賞
加賀市立分枝小学校
1年 北村 悠月
みんなでいっしょに
おんせんにいきたいな



優秀賞
穴水町立穴水小学校
1年 黒田 莉央
かぞくではなび



優秀賞
金沢市立材木小学校
4年 中村 早希
田舎でねた「かや」中



優秀賞
志賀町立高浜小学校
6年 河崎 新一郎
わくわく夕ごはん



優秀賞
羽咋市立白羽咋小学校
6年 河崎 姫弓
家族ふれあい



優秀賞
七尾市立七尾東部小学校
1年 小畑 玲奈
墓そうじ



佳作
加賀市立南郷小学校
1年 藤堂 菜名
たのしいかぞくしょこう(うみ)



佳作
能美市立辰口中央小学校
1年 吉原 柚凪
さくらの木の下で



佳作
金沢市立材木小学校
2年 高桑 有咲
白鳥路まで かぞくサイクリング



佳作
羽咋市立邑知小学校
3年 谷口 優月
楽しかったピザ作り



佳作
羽咋市立羽咋小学校
3年 石野 陽香
みんなニコニコ動ぶつ園



佳作
白山市立蕪城小学校
3年 北村 崇翔
みんなで食べるとおいしいな



佳作
志賀町立高浜小学校
3年 廣白 千晶
ひいばあちゃんのおたんじょう会



佳作
金沢市立南小立野小学校
4年 岩城 楓
家族で川あそび



佳作
羽咋市立邑知小学校
5年 長野 祐紀
楽しかったバーベキュー



佳作
かほく市立高浜松小学校
6年 白江 恵
家族でテニス



佳作
輪島市立河井小学校
6年 新谷 早也香
みんなで食べるかき氷



佳作
金沢市立野田中学校
3年 風見 佳那
家族の休日